

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語／現代の国語】

1. 対象

国語が好きな生徒は少ないが、授業に前向きに参加している。グループ活動は7月から取り組み始めた。大きな抵抗なく活動できている。

2. 単元名「 図表を含む文章を読んで内容を解釈し、自分の考えを深める 」 （全4時間）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 (2)ア
思考力, 判断力, 表現力等	「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれる情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。 C(1)イ
学びに向かう力, 人間性等	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

4. 本時の目標 文章や図表などに含まれる情報を相互に関係付けながら、内容を解釈することができる。

5. 授業展開【 本時 ・ 単元 】 ※本時または単元いずれかに○を付けてください。

解決したい課題や問い

相手に伝わる情報の示し方とはどのようなものだろうか。自分の考えを理由とともに百字程度でまとめよう。

考えるための材料

材料A	材料B	材料C
アフォーダンスについて書かれた、佐藤雅彦の図や文章（『プチ哲学』より）	情報の価値について書かれた佐藤雅彦の図や文章（『新しい分り方』より）	フレーミング効果についての漫画、文章（『ヘンテコノミクス』より）
想定される活動		
適切な情報の示し方の一例を知る。	同じ内容（事実・情報）でも、受け手の事情や解釈で価値が変わることを読み取る。	同じ内容（事実・情報）でも、示し方によって感じ方が変わることを読み取る。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

- ①教科書本文や付属写真、材料Aから、情報の示し方による情報訴求力の違いを考える。【個】→【グループ】
- ②材料Bのグループ、材料Cのグループに分け、同じ内容なのに価値や感じ方が変わる理由を考える。【エキスパート活動】→ある情報を伝えるときに、どのような点に注意して提示すべきかを考える。【ジグソー活動】
- ③①②を踏まえ、相手に伝わる情報の伝え方を百字程度でまとめる。【個】

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

相手に伝えるときには、情報訴求力を考えて文字や図形を使う。受け手の考え方で価値が変わることがあることに注意する。 また、受け手がポジティブに情報を受け取る表現をする。